

新潟市會津八一記念館指定管理者

平成22年度事業報告

、事業の実施に関する業務

基本方針 = 會津八一の学芸の世界を多角的に取り上げて普及を図る。

(1) 展覧会事業

概要 = 全国巡回展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」が新潟、東京、奈良の3カ所で開催した。平城遷都1300年記念に會津八一の学芸を復興(ルネサンス)させるという100年に1回の好機となった。新潟では、新潟展実行委員会の構成団体として当記念館が企画推進し、開催目前の会場変更という異常事態を乗り越えて4月24日～6月6日まで、県立近代美術館(長岡市)会場に130,523人という入場者を集め、当館開館35周年を飾るにふさわしく本県展覧会史上に記録的成果を残した。

夏の企画展は「私が選んだ八一の書(著名人編)」で、当館で講演して頂いた文化人アンケートで最も好きな八一作品を選出し紹介。秋の特別展「會津八一 人生の書～手紙で読む生涯と交友」では八一の生涯や関係者との交流を、書簡などから紹介。目玉は彫刻家奥田勝に送った15m84cmの折帖「與奥田勝書」を新設した長大展示台を用いて展示した。会期中の9月26日、高円宮妃久子さまが視察に訪れた。全体の入館者数は2,216人。冬の企画展「題字の美 八一のブックワールド～併設 第4回写真コンテスト入賞入選作品～」も入館者数は横ばい。年間入館者は7,064人(前年6,987人、1.4%増)と微増に留まった。

(特別展)

會津八一記念館開館35周年記念 會津八一 人生の書「手紙で読む生涯と交友」

(平成22年9月11日～11月23日 開催日数 65日間)

開館35周年を記念して、會津八一の生涯や関係者との交流を、書簡などから紹介。八一は書簡家として知られ、書簡は卒意の書(意識せず、自由に書かれた書)として現代の書家からも評価されているため、美術作品と資料の両面の観点から展示した。彫刻家奥田勝に送った15m84cmの折帖「與奥田勝書」をはじめ、早稲田大学の同僚、窪田空穂、吉江孤雁、日夏耿之介などへ宛てた書簡。また、早稲田時代の学友相馬御風没後60年にちなんで、八一との交流を「良寛」を切り口に紹介した。会期中の9月26日、高円宮妃久子さまが視察に訪れた。また、俳優・寺田農氏、日本絵手紙協会会長・小池邦夫氏の講演会が開催された。比較的地味な「手紙」をいかに紹介するかが課題だったが、「與奥田勝書」の展示のために約9mの特設台を新設した。土、日曜日の解説会はたくさんの長文の書簡を要約して紹介したため、展示全体の把握の手助けとなり好評だった。文章量が多かったこともあり、鑑賞者の滞留時間が長かった。

入館者数2,216人(前年度「會津八一と越の学び舎」2,198人)

(共催企画展)

平城遷都 1300 年記念 「奈良の古寺と仏像-會津八一のうたにのせて～生涯と業績をたどる～」(平成 22 年 4 月 24 日～6 月 6 日 開催日数 41 日間)

仏像展実行委員会や日本経済新聞と共催し、県立近代美術館との連携展示。會津八一の名品や奈良関連作品を展示し、生涯や業績を紹介した。また最も交流のあった東大寺と八一の特設コーナーでは東大寺塔頭・観音院元住職上司海雲へ贈った八一の書作品や両者の往復書簡も陳列した。

県立近代美術館(長岡市)への会場変更に伴い、新潟市美術館との連携展示が出来ず、期待した入館者数より大幅に下回った。しかし、会期後半は、中宮寺本尊・菩薩半跏像が長岡会場で出陳された効果か、団体客の来館者が増加した。とりわけ女性の入館者率が高かった。

入館者数 2,439 人(前年度「街の中の會津八一 第 2 弾」2,097 人)

(企画展)

會津八一記念館開館 35 周年 「私が選んだ八一の書(著名人編)」
(平成 22 年 6 月 25 日～9 月 5 日 開催日数 65 日間)

収蔵品の中から写真家・歌人・俳人・文芸評論家・研究者・茶道家・奈良京都の僧侶など、過去に当館で講演して頂いた文化人にアンケート調査を出し、各自が最も好きな八一作品を選出し展示した。その際、作品に対する思いやエピソードも併せて紹介した。

夏の企画ということもあり入館者数は伸びなかったが、初めての来館者、県外からの来館者が多く、「奈良の古寺と仏像」展(東京展が開催中)、NHK 日曜美術館の放映などの影響が大きかったと考えられる。著名人の視点が面白いという、展示の満足度が高く、評判が良かった。

入館者数 1,474 人(前年度「濱谷浩 會津八一博士を写す」1,777 人)

「題字の美 八一のブックワールド ～併設 第 4 回写真コンテスト入賞入選作品～(平成 22 年 12 月 14 日～平成 23 年 3 月 27 日 開催日数 78 日間)

書物の表紙につけられた八一の題字資料を一堂に展示。板画家棟方志功と合作した歌誌の表紙「新潟短歌」、友人知人の著書や雑誌に八一が揮毫した書籍などを紹介。同時開催で第 4 回秋艸道人賞写真コンテストの入賞入選作品 26 点も展示した。期間中「まちなかの文学を歩く」連絡協議会による、文学まち歩きツアー実施の影響で、2 月の入館者数が前年月より 100 人ほど増加。しかし、3 月は東日本大震災のため、入館者が途絶える日が続いた。
入館者数 935 人(前年度「新収蔵品展」893 人)

(2) イベント事業

概要 (文芸講演会) = 仏像展期間中、ご本尊を出陳された中宮寺の日野西光尊門跡と

神林恒道館長による講演会等を長岡市、佐渡市、新潟市で開催し、ご門跡の色紙即売会も行い、販売収入 30 万円は当館に寄付を頂いた。仏像展関連では神林恒道館長 11 回、喜嶋、湯浅両学芸員が各 1 回の講演活動を展開した。

文芸講演会と学習講座は活発に展開し、主催（共催も含む）では 15 回開催、聴講者数は延べ 2,996 人。出前講座など他団体主催の講演会は 21 回、延べ総聴講者数は 1,943 人。主催と出前を合わせて、神林館長の講演は 21 回、喜嶋学芸員 8 回、湯浅学芸員 5 回と総計 34 回にのぼった。他団体からの講演要請の増加が 21、22 年度と増加傾向が続いている。

概要（写真コンテスト）「會津八一の歌を映す」第 4 回秋草道人賞写真コンテスト

年度当初にポスターと募集要項を写真関連団体や大学、同好会などへ送付し公募した。12 月に審査会、記者発表を行い、1 月に授賞式・講評会を開催した。同コンテストでは引き続き共催 5、協賛 2、協力 5 の 12 団体から金銭や物品の支援を受けた。

主催講演会事業

八一祭記念講演会（有料 500 円）テーマ「會津八一と禅語」

講師 有馬頼底氏（臨済宗相国寺派管長）

日時 8 月 3 日（火） 午後 2 時～ 3 時 30 分

会場 りゅーとぴあ 能楽堂

聴講者 240 人

特別展関連第 1 回文芸講演会（有料 500 円）テーマ「表現すること」

講師 寺田農氏（俳優）

日時 10 月 11 日（月祝）午後 3 時～ 4 時 30 分

会場 新潟市民プラザ（NEXT 21 ビル 6 階）

聴講者 318 人

特別展関連第 2 回文芸講演会（有料 500 円）テーマ「會津八一と手紙」

講師 小池邦夫氏（絵手紙作家）

日時 11 月 5 日（金）午後 2 時～ 15 時 30 分

会場 りゅーとぴあ能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）

聴講者 190 人

「會津八一の歌を映す」第 4 回秋草道人賞写真コンテスト

・公募期間 2010 年 4 月から 11 月 12 日（作品搬入 11 月 5 日～ 12 日）

・応募点数 63 点

・応募人数 45 人（県内 17 人 県外 28 人）

・審査委員 浅井慎平（委員長）、大橋一章、小川光三、和泉久子、神林恒道の 5 氏

・審査会 12 月 5 日 14 時～ 17 時 ホテルオークラ

・審査結果 秋草道人賞に新潟市江南区の栗原昭作さん

奨励賞 5 人は県内 1 人、奈良県 3 人、兵庫県 1 人

入選は 15 人（県内 5、奈良 3、石川、岡山、埼玉、神奈川、東京、大阪、福島各 1）

・記者発表 12 月 6 日（月）午前 10 時 30 分 新潟県政記者クラブ：浅井委員長、神林館長、武藤事務長

授賞式・作品講評会 = 審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）

- 23年1月29日(土)午後2時~4時 クロスパルにいがた映像ホール 参加人数90人
 ・祝賀会 23年1月29日(土)午後5時~6時30分 ホテルオークラ 参加数48人

奈良中宮寺歌碑除幕式 11月29日(土) 同歌碑建立の会事務局を担当

- ・式典 中宮寺境内 午後1時~3時 参加人数280人
- ・祝宴 聖徳会館 午後4時~午後6時 参加人数150人
- ・宗次郎コンサート いかるがホール 午後7時~8時30分 参加人数750人
- ・歌碑建立寄進者数 767人

新潟日報文化賞受賞・神林館長「にいがた文化の記憶」出版を祝う会

- 23年1月16日(日) ホテルイタリア軒 事務局に参加 参加人数200人
 神林館長記念講演「酒と日本文化あるいは新潟の文化」

学校・公民館等への出前講演・講座(他団体との共催) 参加者負担

新潟日報カルチャースクールと共催 講師:神林恒道館長

会場:チサンホテル(第1、2回)音楽文化会館(第3回)

- ・第1回 4月17日(土)「法隆寺再建の謎」 聴講者 311人
- ・第2回 5月15日(土)「東大寺と奈良の仏たち」 305人
- ・第3回 6月5日(土)「大仏炎上と鎌倉彫刻」 280人
- ・上越会場:4月18日(日)「東洋の眼西洋の眼」(文化会館) 56人

仏像展関連事業(神林恒道館長担当)

- ・4月25日(日)シンポジウム「こころの時代」主催:「奈良の古寺と仏像」実行委員会
 基調講演「歌とつなぐ仏のこころ 會津八一と奈良歌」(ホテルイタリア軒) 460人
 - ・5月2日(日)講演「やさしい仏像の見方」 主催:「奈良の古寺と仏像」実行委員会
 会場:新潟県立近代美術館講堂 155人
 - ・5月29日(土)対談「いつくしみの心」 主催:「奈良の古寺と仏像」実行委員会
 中宮寺日野西光尊門跡と対談 会場:長岡グランドホテル 148人
 - ・5月30日(日)鼎談「佐渡と中宮寺の縁」 主催:佐渡市、佐渡市教育委員会
 中宮寺日野西門跡、館長、山本修巳氏 会場:佐渡・金井能楽堂 150人
 - ・6月1日(火)講演「やさしい仏像の見方」 主催:日報趣味の会
 会場:新潟県立近代美術館講堂 130人
 - ・6月3日(木)対談「修羅の世をどう生きる」 主催:仏像展実行委員会
 会場:りゅーとぴあ能楽堂 270人
- 講師:北河原公敬東大寺別当、日野西光尊中宮寺門跡
- ・7月10日(土)講演「會津八一の心の旅 『奈良の古寺と仏像』展によせて」
 主催:財団法人ならまち振興財団 会場:日本橋三越 約50人

(学芸員担当)

- ・5月9日(日)鼎談「會津八一のまなざし 奈良・そしてふるさと新潟への思い」
篠田昭新潟市長、加藤種男アサヒビール芸術文化財団事務局長、喜嶋学芸員
主催：新潟市 会場：市民プラザ(NEXT21) 100人
- ・5月15日(日)講演「仏像を撮るとのこと 晴暘と光三のまなざし」
小川光三氏、湯浅学芸員 主催・会場：新潟市美術館 103人

その他の出前講演・出前講座

- ・4月21日(水)講演「會津八一と越後の文人」 講師：神林館長 40人
主催：新潟愛郷会 会場：新潟愛郷会会議室
- ・4月28日(水)講演「奈良の古寺と仏像」展について 講師：喜嶋学芸員 50人
主催：南口ロータリークラブ 会場：オークラホテル
- ・5月16日(日)講演「會津八一と奈良の仏たち」 講師：神林館長 66人
主催、会場：見附市中央公民館
- ・5月25日(火)出前講座「八一の魅力」 講師：喜嶋学芸員 26人
主催：Lの会 会場：クロスパルにいがた
- ・5月28日(金)出前講座「會津八一をめぐる人々」 講師：湯浅学芸員 70人
主催、会場：鳥屋野公民館
- ・6月13日(日)講演「蒨谷虹児」 講師：神林館長 100人
主催：蒨谷虹児記念館 会場：新発田市民会館
- ・7月3日(土)講演「八一と御風」 講師：湯浅学芸員 70人
主催：糸魚川市相馬御風記念館 会場：糸魚川市役所
- ・7月31日(土)講演「美術教育の目指すもの」 講師：神林館長 60人
主催：美術教師の会 会場：新潟県立近代美術館講堂
- ・8月25日(水)出前講座「會津八一について」 講師：喜嶋学芸員 71人
主催：亀田福寿大学 会場：亀田公民館
- ・9月18日(土)出前「新潟が生んだ偉人 會津八一に学ぶ」 講師：喜嶋学芸員 15人
主催：市内小中学校日本語教育分科会 会場：南万代小学校
- ・10月28日(木)講演「新潟の文化」 講師：神林館長 550人
主催：私立大学連盟 会場：ホテルオークラ
- ・10月30日(土)講演「會津八一と宮城道雄」 講師：喜嶋学芸員 50人
主催：宮城会 会場：宮城道雄記念館
- ・11月3日(水)講演「富岡惣一郎白の美」 講師：神林館長 80人
主催、会場：トミオカホワイト美術館
- ・11月6日(土)鼎談「越佐 医学・文人の記憶」 講師：神林館長 150人
主催：新潟日報社 会場：新潟国際情報大学

- ・12月18日(土)講演「文化人としての大倉喜八郎」 講師：神林館長 170人
主催：大倉喜八郎の会 会場：新発田市生涯学習センター
- ・12月22日(木)出前授業「會津八一の生涯と手紙の魅力」 講師：喜嶋学芸員 47人
主催、会場：新潟江南高校
- ・23年1月7日(金)講演「棟方志功と會津八一 ~越後の人々との交流~」
主催：新潟日報社 会場：伊勢丹アートホール 講師：喜嶋学芸員 80人
- ・23年1月28日(金)講演「にいがた文化の記憶」 講師：神林館長 35人
主催：藍の会 会場：一ノ
- ・23年2月12日(土)解説「まちなかの文学を歩く」文学まち歩きツアー
主催：「まちなかの文学を歩く」協議会 講師：湯浅学芸員 3人
- ・23年2月26日(土)解説「まちなかの文学を歩く」文学まち歩きツアー
主催：「まちなかの文学を歩く」協議会 講師：湯浅学芸員 10人

(4) 関連博物館との連携強化

「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたにのせて」巡回展

新潟展：4月24日(土)～6月6日(日) 新潟県立近代美術館 収蔵品 9点貸出

東京展：7月7日(水)～9月20日(月祝)三井記念美術館 収蔵品 12点貸出

奈良展：11月20日(土)～12月19日(日)奈良県立美術館 収蔵品 34点貸出

「會津八一と小川晴暘」

4月24日(土)～6月6日(日) 新潟市美術館 収蔵品 10点貸出

「會津八一と南浜分館 10年間の記憶展」

3月20日(土)～6月20日(日) 北方文化博物館新潟分館 収蔵品 1点貸出

「北海道立近代美術館所蔵 片岡球子と日本画の巨匠たち」

23年1月2日～17日 新潟市美術館 収蔵品 1点貸出

第3回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

奈良展：9月1日(水)～12日(日) 奈良県立図書情報館 写真 26点貸出

新潟展：10月14日(木)～17日(日) 胎内市産業文化会館 写真 26点貸出

(参考関連展)

「會津八一コレクションの近世書画展」

11月5日(金)～11月30日(火) 早稲田大学會津八一記念博物館

「會津八一と奈良の写真家 工藤利三郎・小川晴暘・入江泰吉」

11月20日(土)～12月23日(木祝) 奈良市写真美術館

「新宿中村屋に咲いた文化芸術」

23年2月19日(土)～4月10日(日) 新宿区立新宿歴史博物館

(5) その他の事業

イ) 学習講座 (参加者負担)

・ 會津八一の歌を読む会 (砂丘館 毎月第1土曜日 受講者19人)

講師: 若月忠信氏 (文芸評論家)

ロ) 鑑定会

春の部 5月16日(日) 総点数16点 認定数11点

秋の部 11月7日(日) 総点数15点 認定数13点

ハ) 旅行企画 (参加者負担) = 記念館と日報旅行センターと共同企画

「會津八一と上州・信濃路」の旅 1泊2日

6月16日(水)~6月17日(木) 喜嶋学芸員同行解説

喜光寺の會津八一歌碑除幕式と正倉院展の旅 3日間

10月30日(土)~11月1日(月) 浅田隆・奈良大学名誉教授が解説

中宮寺の會津八一歌碑除幕式と奈良の名刹・八一歌碑めぐり 4日間

11月28日(日)~12月1日(水) 浅田隆・奈良大学名誉教授が解説

、施設の運営に関する業務

(1) 平成22年度実績

観覧者数 7,064人 (当初目標7,900人)

観覧料収入 2,506,800円 (当初目標3,000,000円)

うち仏像展収入 822,660円 仏像展実行委員会へ納入

(2) 再委託業務の計画

内 容	業 者 名
防犯・非常通報・火災異常等の業務	上信越セコム
総合清掃業務	新潟ビルサービス
冷暖房切替、点検整備	木村計装
消防用設備点検	新潟ニッタン
貯水槽の清掃・水質検査	新潟三協
庭の手入れ	新潟シルバー人材センター
エレベーター保守点検	三菱電機ビルテクノサービス
損害保険	三井住友海上火災保険(株)
建物定期検査	加賀田組
収蔵庫・展示室定期検査	中部資材
ホームページの運営	新潟日報事業社

(3) 人材の育成

・出前講座の講師に積極的に務めること、他団体の研修や事業に学芸員が参加し、他館の学芸員や当館のサポーターと交流し、知識・人脈を活動に反映できるようにすることが目的。

喜嶋学芸員は4月28日、5月9日、5月25日、8月25日、9月18日、10月30日、12月22日、23年1月7日と8回の出前講師を務めた。

湯浅学芸員は5月15日、5月28日、7月3日、23年2月12日、2月26日と5回の出前講師を務めた。

喜嶋学芸員は6月の「會津八一と上州・信濃路の旅」に同行し研修と解説を務めた

湯浅学芸員は、11月の県博物館協議会の研修会に参加した。

11月29日の中宮寺の會津八一歌碑除幕式の開催準備のため、事務長、総務係、両学芸員という具合に館全体で関わり、奈良との交流を深めた。

以上のように積極的に出前講座の講師をすることにより、学芸員の解説力を高めた。

(4) 新聞、放送、ホームページ等の活用

本年度も、学芸員が自らはブログに展覧会、イベント、記念館の周辺の季節の変化などを毎週1回紹介し、誘客活動を推進した。また、新潟日報文化面への執筆、新潟放送番組への出演など積極的に露出し普及活動を行った。

(5) 収蔵品の整理

ボランティアによる当館が所蔵する来信書簡7,884通(前年度より整理によって77通増加)のうち、今回完了分すべてを平成22年2月8日に新潟市に寄贈した。他方書簡解読については、22年度は226通(15人分)を完了した。初年度の20年度は書簡数33通(1人=東大寺の上司海雲師)、21年度は421通(20人分)だった。3年間合計で680通となり、解読率は全書簡の8.6%まで進んだ。

八一作品の画像と情報のデータベース化を自前であることを検討中。

、その他

(1) 自己評価

全国巡回展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」が新潟、東京、奈良の3カ所で開催した。平城遷都1300年記念に會津八一の学芸を復興(ルネサンス)させるという100年に1回の好機を3年がかりの準備で実現した。新潟では県立近代美術館(長岡市)会場に130,523人という入場者を集め、当館開館35周年を飾るにふさわしく本県展覧会史上に記録的成果を残した。その後、東京、奈良の2会場でも會津八一展を実現し、八一の再普及に大きく貢献できた。

仏像展関連を中心に館長講演、学芸員講座など合計36回を開催し、延べ約5000人の参加者を集めた。

月間入館者数のグラフ化を維持し、職員全体で入場者増加を努めたが、微増に留まった。講演会の参加者はまずまずの数を確保できるが、記念館誘客の工夫が大課題である。

(2) 寄贈、寄託

- ・収蔵品の充実を図るため、寄贈・寄託の申し入れには素早く対応してきた。

寄贈 60点(評価額929万円)

會津八一書簡 松山ちよ宛7通

高島コレクション 中国明器・瓦当50点

會津八一歌碑拓本「喜光寺歌碑・ひとりきて」及び碑陰 2点

會津八一歌碑拓本「中宮寺歌碑・みほとけの」1点

(3) 広報活動

新聞(新潟日報)

- ・仏像展関連 記事 61回 広告 約100回
- ・その他 記事 21回 広告 43回(展示など28回 複製販売15回)

テレビ、ラジオ(BSN新潟放送)

- ・テレビ=CM 168本、 ニュース4回
- ・ラジオ=CM 221本、 生出演 1回
- ・ホームページ バナー広告

市報にいがた

- ・展覧会、講演募集 17回

、収支決算書(別紙)